

平成29年度 第1回小浜市総合教育会議 会議録

開催日時		平成29年8月18日(金)	開会 9:58 閉会 12:03		
開催場所		市庁舎4階 401会議室			
出席者	構成員	小浜市長 松崎 晃治 小浜市教育委員会 教育長 森下 博・同職務代理者 山崎 正博・委員 入江 深砂・委員 上田 俊彦 委員 山崎 まどか			
	事務局	【教育委員会】 教育部長 西田 雅志・教育部次長 前野 浩良・教育総務課長 谷 義幸 文化課長 百田 典子・教育総務課GL (前田 良則・坂上 和由・松岡 靖洋) 文化課GL (渡邊 英明)・企画部次長 東野 克拓			
傍聴者					
会議					会議の結果
<p><b>1 開会</b></p> <p><b>事務局</b>           ただ今より、平成29年度第1回小浜市総合教育会議を開会します。                           なお、本日の会議の終了予定時刻につきましては、午後0時を予定して                           いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p> <p><b>2 協議</b></p> <p><b>事務局</b>           それでは、早速ではございますが、次第の2協議に入らせていただきた                           いと思います。                           議長につきましては、本会議の設置者であります松崎市長をお願いいた                           します。</p> <p><b>松崎市長</b>           皆さんおはようございます。開会にあたりまして一言ご挨拶させていた                           だきます。                           本日は、総合教育会議を招集させていただきましたところ、教育委員の                           皆様には公私ご多忙のなかお集まりいただき、まことにありがとうございます。                           日頃は、本市教育行政の推進に多大なるご尽力をいただいていること                           に對しまして、厚くお礼申し上げます。                           さて、本日は本市の教育行政の課題として5つの項目について協議する</p>					

こととなっています。

協議事項の一つ目は、小浜美郷小学校の開校準備について、二つ目は、スポーツを活用したまちづくりについて、三つ目は、文化会館の改修方針について、四つ目は、文化活動に携わる団体への協力について、五つ目は、小中学校の現状報告についてでございます。皆さまからのご意見をいただきながら協議を進めてまいりたいと思います。文化会館については、先ほど現場を見ていただき、いろいろご感想をお持ちになったことと思います。これからの方針について一緒に考えていきたいと思っています。

この会議につきましては、教育委員の皆さまと活発に意見を交わし、本市の教育行政がより良いものとなるよう努めたいと思いますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、会議次第に基づきまして議事進行を進めさせていただきます。

まず、協議事項1小浜美郷小学校開校準備について、はじめに事務局から資料の説明をしてください。

#### <教育総務課長説明>

松崎市長

ただいま事務局から説明がありましたが、これにつきまして意見交換を行いたいと思います。ご意見、ご質問など何でも構いませんので、挙手のうへご発言をお願いします。

森下教育長

工事は予定通り進んでいると理解してよいのか。

教育総務課長

資料2頁をご覧ください。工事は順調に進んでおり、予定通り完成する見込みとなっています。スケジュールの赤線が今現在を示しています。先ほど、校舎・体育館の進捗率は35%程度と説明させていただきましたが、スケジュールの赤線は35%を超えているように見えますが、今現在は躯体の施工等を行っており、期間を要していますが、この後は内装や設備工事となります。そうすると進捗の速度が上がってくるので、現在35%となっていますが順調に進捗しています。今後、外構工事を10本程度発注する予定であり、複数の工事が錯綜することとなりますが、業者の工程調整を十分に行いながら、また設計に携わった石本・垣本JVが監理を行っていますので、問題なく完成する見込みとなっています。

山崎職務代理

通学部会で協議されている通学方法（バス通学・徒歩通学）の今現在の状況は。ほとんどの児童がバス通学になるのか。

教育総務課長

配布してあります開校準備委員会だよりの3頁をご覧ください。通学方

法に関する基本的事項としましては、小浜美郷小学校までの距離が2.0km(30分)未満を徒歩通学としています。2.0km以上はスクールバス通学を基本と考えており、今現在、スクールバス通学は国富地区全域、宮川地区全域、松永地区全域であり、遠敷地区については、竜前から上の地域がスクールバスの通学区域となっています。遠敷のその他の地域が徒歩通学になります。人数割合は、開校時の児童数は320人ほどを予定しており、約3分の2がスクールバス通学、3分の1が徒歩通学ということで約200人がスクールバスを利用し、100人が徒歩通学するというかたちで今進んでいます。

**上田委員** 「課題として、学校備品について可能な範囲で現小学校の備品を持ち寄ることとしているが、新規購入を要する備品にかかる経費の精査」とあるが、児童の机・椅子はどのような計画になっていますか。

**教育総務課長** 「可能な範囲」についてですが、毎年教材等の備品については教育委員会の予算で購入しています。できるだけ使用可能なものについては、美郷小学校に持ち込み使用したいと考えています。児童の机・椅子についての現在の教育委員会の方針としては、全て新規購入させていただきたいと考えています。

**上田委員** 学校のすぐそばを北川が流れており、万が一河川が氾濫し浸水するような場合の児童等の安全対策はどのようになっていますか。

**教育総務課長** 児童等が学校にいる時に災害が発生した場合については、早期に情報収集を行い、児童が学校に残るような状況が無いよう対応することを学校の経営方針に基づき進めていく。児童が学校にいない時ですが、施設等の浸水も考えられますが、洪水ハザードマップ等の情報を基に、用地は2メートル嵩上げしてあります。洪水ハザードマップによれば浸水の高さは1.5メートルということで、浸水することはないかと考えられます。

しかしながら、想定外の災害も発生することがあるので、情報収集に努め、子どもたちの安全、施設の安全の確保を図っていきたいと考えています。

**入江委員** ランドセルについて、開校準備だよりも掲載の軽量ランドセルを奨めるということなのか、これを使ってもらうようにするということか。

**教育総務課長** ランドセルについては、数回にわたり総務部会において議論いただきました。保護者の負担軽減ということを踏まえ、このランドセルを決定させていただきました。ただ、色については保護者・子どもに選択していただくということにしています。

入江委員	よく祖父母が孫にランドセルを購入するが、小浜美郷小学校はこのランドセルの4色のうちからということですか。
教育総務課長	その通りです。総務部会の中でも、祖父母が高価なランドセルを孫に買ってあげるのを楽しみにしているという意見もありました。しかし、保護者の負担軽減を図ることを考え、このランドセルとさせていただきます。このランドセルは、現在市内の小学校でも使っており、また軽量であることから子どもの負担も軽減できるかと考えています。
松崎市長	ほかに、ご意見などございませんか。それでは次に小浜美郷小学校の校歌についての報告を事務局から説明してください。
＜事務局説明→作曲者大沢氏のメッセージ朗読→校歌の試聴＞	
松崎市長	ただいま事務局から説明と、校歌の試聴いただきましたが、これにつきまして、ご意見、ご質問、校歌を聴いての感想など何でも構いませんので、挙手のうえご発言をお願いします。
森下教育長	大沢先生にお願いし、21世紀にふさわしい、未来に向けてのびのびと感じるような歌を作っていただきました。誰が聞いても明るく良い歌だと思います。
山崎委員	サビの部分は2部合唱になっているのですか。
事務局	先生には、ハモることができる作品を作っていただきました。ハモる場合とハモらない場合の2パターンの作品を作っていただいています。
森下教育長	開校式ではどちらで歌うのか。
事務局	通常、式典などではハモらないパターンかと思いますが、開校に向けて練習していくときには、大沢先生の指導も受けますので、先生からハモる場合の指導も受け練習していきたいと思います。
上田委員	開校式には歌わなければならないのですね。
事務局	子どもたちと来賓の方々など全員で歌いたいと考えています。
森下教育長	平成30年の2、3学期に子どもたちを集めて練習をしたいと思います。
松崎市長	皆さんの感想は良い歌ができたということで、これでいいと思います。それでは、協議事項1小浜美郷小学校の開校準備については、ここまでとさせていただきます。
	つづきまして、協議事項2スポーツを活用したまちづくりについて、はじめに事務局から資料の説明をしてください。
＜教育部次長説明＞	

- 松崎市長** ただいま事務局から説明がありましたが、これにつきまして、意見交換を行いたいと思います。ご意見、ご質問など何でも構いませんので、挙手のうえご発言をお願いします。
- 松崎市長** 市民体育館等を指定管理者に管理させているが、そこに人材が豊富ですね。ウェイトリフティングの選手もビーチバレーボールの選手もいる。それらの人材を活用してはどうか。
- 教育部次長** 市民体育館においては、今年の春からオーイング・アイビックス共同企業体に指定管理者として管理してもらっています。市民体育館の日勤の職員にはウェイトリフティングの国体に出場する選手が何名かおり、オーイングにはビーチバレーボールの選手がいます。そういう選手の方に教室を開いてもらえないか考えています。
- 上田委員** 国体や世界選手権に出る選手がいるのもったいないので、私も選手らの活用を要望したい。  
選手育成のために、市の働きかけで有名選手やコーチを招くなど、競技力の向上に力を入れていただきたい。
- 森下教育長** 体協等でヒントを出していただいて、事務局と一緒に市民協働の精神で働きかけていただければなと思いますので、よろしくをお願いします。
- 山崎委員** トライアスロンやバイアスロンを開催するのに小浜は立地条件がいいと思っていました。開催までには様々な事柄について協議・準備しなければなりません、開催すると選手らは宿泊し、観光の振興も図れます。スポーツツーリズムをもっと推進して行ってほしいと思っています。
- 教育部次長** 市だけでやっていくのはなかなか難しいということで、今回説明させていただきましたこういう組織を国体後に立ち上げてやっていけないかと考えています。まずは、地域スポーツコミッションの立ち上げに向けて、今後、いろいろ研究をしていきたいと考えています。
- 松崎市長** ほかに、意見などはございませぬか。ないようですので、協議事項2スポーツを活用したまちづくりについては、ここまでとさせていただきます。  
つづきまして、協議事項3文化会館の改修方針について、はじめに事務局から資料の説明をしてください。
- <文化課長説明>**
- 松崎市長** ただいま事務局から説明がありましたが、これにつきまして、意見交換を行いたいと思います。ご意見、ご質問など何でもかまいませんので、挙

手のうえご発言をお願いします。

上田委員

耐震について、マグニチュードでどのくらいの大きさを倒壊の恐れがあるのですか。

文化課長

耐震診断ではCランクであり、絶対安全というランクではない。客席の天井が吊り天井となっており、一番心配しているのが、東日本大震災の時に東京の九段会館が同じ形状の天井で、それが落ちて被害が出たということで、文化課としては吊り天井の改修はしなければならないと考えています。

松崎市長

文化会館も一緒に耐震改修する計画でしたが、学校の耐震を優先した。それと国体が開催されるため、市民体育館の耐震改修を優先したという経緯があり、文化会館の耐震改修が残った。完全に耐震化しようとするとおよそ4億5千万円かかります。市民体育館も最終的に4億ほどかかりました。3億で建てた施設に耐震改修で4億かかったということで驚きましたが、今体育館を新築すると25億ほどかかると思います。文化会館は鉄筋コンクリート造りで、耐用年数が60年のうち46年経過しており、耐震化しても耐用年数が伸びるわけではないということです。4億5千万円の費用をかけても十数年になる可能性があるということをお頭にしておかなければなりません。

例えば、吊り天井だけでも改修してはどうかと思うが、建物自体の耐震診断がCランクであることから絶対に安心ということも言えない。

入江委員

旭座ではできない文化会館の企画はどれくらいあるのですか。

文化課長

旭座と文化会館では定員も違い、旭座の音響・照明設備は文化会館ほどではないので、使用する市民が旭座と文化会館のすみ分けをして使用されています。

入江委員

比率的には文化会館の方が多いのですか。

文化課長

旭座は椅子席にしても定員が200人なので、小中学校の音楽会や高校の合唱コンクールでは入りきれないので、文化会館を選ばれるということもあり、旭座のステージはそんなに大きくないため、ブラスバンドは文化会館を選ばれる。旭座が出来て文化会館の利用が減っているということはありません。

山崎委員

もし新築する場合、別の場所に建築するのか。

文化課長

たいへん難しい問題かと思えます。現在の場所で50年余り経過し、市民の方も馴染んでいるので、移転はどうかと思えることもありますが、今後、そういう意見が出てきたときは、市民アンケートや文化団体からの意

見をいただいたうえで決めていきたいと思っています。ただ、新幹線の駅の整備の話が進められる時には、駅周辺施設の整備として駅周辺にという意見もでてくるかもしれませんが、その辺は今後検討していく必要があるかと考えています。

森下教育長

こういうことは、教育委員会だけで推進することはできないものであり、市長部局が中心となって進めなければならない大きな事だと思います。文化課長としてお答えできる範囲を超えていることをご理解願います。

松崎市長

もし、文化会館を新築するという事になった場合は、場所の選定から考えていかなければならないことになると思うので、現在地か新しい場所になるのか、そこからの検討になると思います。現在地ということになれば、その間休館になり、市民の皆さんにご不便をおかけすることになります。国体開催に向けての改修工事で市民体育館を休館していた間は、近隣の町や二中の体育館などでカバーしてきたが、文化会館の場合、代わりとなる施設が市内にはないので、近隣の町にお世話になることになるのではないかと思います。

まず、新築するかしないかの検討から始まり、新築するとなれば場所の検討に入り、その時に先ほど文化課長が述べたように、例えば新幹線の駅が東小浜周辺と言われていますので、その周辺にということであればそうなりますし、それに合わせて大きな区画整理を行い、まちを整備するならそちらの方へという意見もあったかと思っています。しかし、まだ新幹線開通に向けたまちづくりは決定していませんので、今の流れとしては、立地適正化計画をこれから発表しなければならない。これは、コンパクトシティというもので、出来るだけコンパクトにまちなかへ誘導していく方針が出されますので、そうすると現在地もコンパクトにまとめられる可能性もあります。日本の国の流れはコンパクトシティであるが、小浜が違うのは新幹線の駅が出来るということがある。それによってこれから変わってくる可能性があると思うので、今後、場所を考えるときには考慮しなければならないことかと思っています。警察署も東小浜に移転しますし、新幹線を見越してということではないそうですが、小浜縦貫線がメイン道路になりつつあるということで、治安を守るうえであの場所がいいということになったのかと思います。もしかすると、そういう考え方もないことはないかと思っています。

森下教育長

そういう話になるので、教育委員会の範疇を超えていますので、市長部局の方で大きな枠を作っていて、教育委員会に任された範囲内で仕

事をさせてもらうという形になるのではないかと私は理解しています。そういう意味で今日はいろんな事項を提案させていただいています。

入江委員

修繕しなければならないものはいろいろありますが、人命の安全上再優先で行わなければならないものの上位3つは何ですか。

文化課長

耐震補強、天井補強、非常用発電機の改修と吊り物かと思います。

森下教育長

非常用発電機は、プロが文化会館を使用しているときに電源が落ちると補償問題が生じてくるためです。

入江委員

金額がたいへん大きいので、費用を圧縮して改修を進め少しでも直っていったらいいなと思います。

文化課長

まずは、耐震補強についての計画を策定する業務を振興実施計画において優先しています。耐震補強にどれくらいの費用がかかるか算定してもらい、あと電気系統（高圧設備）の問題ですが、たいへん老朽化しているため、それを修繕し何とか館を維持していけるようにという方向で市の計画に上げていきたいと考えています。

松崎市長

市政にとっても重要な課題であり、出来る限り早急に安全性の確保を図っていきたくと考えています。学校の耐震化については国の補助制度がありました。文化会館にはない。起債等も考えながらやっていかなければならない。

それでは、協議事項3文化会館の改修方針については、ここまでとさせていただきます。

つづきまして、協議事項4文化活動に携わる団体への協力について、はじめに事務局から資料の説明をしてください。

#### <文化課長説明>

松崎市長

ただいま事務局から説明がありましたが、これにつきまして、意見交換を行いたいと思います。ご意見、ご質問など何でも構いませんので、挙手のうえご発言をお願いします。

松崎市長

文化課の今の考えは、市民と新しい組織を作って進めていくということですね。

文化課長

文化会館の自主事業は、文芸おばまが中心となって行っていますが、今の現状では、事業が偏ってしまっている部分もあつたり、市民の声が反映されていない部分もあるという意見もいただいていますので、団体と行政、他の分野の市民の方から、こういうことをやっていこうという意見をいた



だき、検討し決定していくような組織の立ち上げが必要でないかと考えています。

入江委員

旭座ではいろんな催しをされていますが、そこへ上げるものを皆さんで企画して検討されます。そういうものの文化会館版ということですか。

文化課長

旭座の事業は、市民や全国の方から提案のあったものを審査し、採用するという形をとっていますが、そういう形をとるか、上がってきた企画に対して文芸おばまに所属する人や青年、婦人団体と一緒にやっつけようかを決定していくことで、少し似ている部分はありますが、審査という形ではなく、一緒にこれをやろう、あれをやろうという意見を聴いて決定していくということです。

入江委員

一緒に出来そうなものを探っていくということですね。

上田委員

パレア若狭（若狭町）やナビアス（美浜町）には、文化振興について精通された方がおられる。小浜市あるいは文化団体において文化振興を改革していこうという委員会のようなものは今ありますか。

文化課長

今現在そういう組織はありません。今回、問題提起させていただいたのは、そのようにしていかなければならないと捉え、協議事項にあげさせていただいています。アドバイザーを中心に本市の文化振興事業をどのように行っていくのが市民にとっても、文化団体にとってもいいのかを踏まえた協議をしていかなければならないと思っています。

上田委員

市の方から呼びかけるなどして、小浜市の文化振興の改革委員会のような組織を立ち上げていただき、市内の有識者や精通された方にトップになっていただき、市民の意見等を聴取していくのも方法ではないかと私は思っています。

文化課長

ご意見を参考として検討していきたいと思います。

松崎市長

ほかに意見が無いようですので、協議事項4文化活動に携わる団体への協力については、ここまでとさせていただきます。

つづきまして、協議事項の5に移りたいと思いますが、この案件につきましても、個人の秘密を保つ必要があると認められることから、小浜市総合教育会議設置要綱第6条第1項ただし書きの規定に基づき、ここからは非公開とさせていただきます。よろしいでしょうか。

全員

異議なし。

松崎市長

ありがとうございます。協議事項5については非公開とさせていただきます。

**【会議録のこれより以下の内容は非公開】**